明治三十一年八月

定紋條例建白書

東京市麹町區有樂町三丁目壱番地寄留
山梨縣平民
鷹巣清次郎

2753

114
A 4284

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

定紋條例公布ノ建白

謹テ按スルニ我邦古来定紋ノ設ケアリ延喜天暦以降兵乱相継キ天慶保元ヨリ平治治承ノ國變ヲ經テ政權漸ク武門ニ移リ北條足利豊臣德川而テ大權復タ九重ノ上ニ歸シ士民均シク盛世ノ德化ニ浴スルヲ得タリ其間權邸門閥或ハ興リ或ハ斃レ盛衰一ナラス然レトモ古家遺族流風餘音連綿トシテ百世ニ亘リ幾ント系統ト相伴フテ而テ今日ニ存スルモノハ彼ノ定紋ニ非スシテ何ソヤ北條氏ノ三鱗豊臣氏ノ千瓢德川氏ノ葵ノ如キ

今ニ至テ人目ニ影射時ニ又祖先ノ遺業ヲ追
懐セシムルニ足ルモノアリ況ンヤ國章ノ神聖ニ
シテ汚スヘカラサルモノアルオヤ菊花桐葉千萬
世ヲ閲シテ芳香ヲ仰ク固ヨリ其故アルナリ凡ソ
人朝見拜賀ヨリ婚姻葬祭ノ末ニ至ルマテ苟モ
時服ノ禮ニ係ルモノハ亦必ス定紋ナカルヘカラス
是レ實ニ邦家特得自然ノ美風而テ歐州曾
テ之レナキ所ノモノナリ條約ノ實施既ニ迫リ内地
ノ雜居遠カラス此ノ時ニ當リ一善法ヲ布テ特種ノ
權利ヲ明カニスルハ蓋シ刻下ノ急務ナリト謂フヘ

シ已ニ徽章條例アリ又商標條例アリ而テ獨リ
定紋條例ノ設ケナキハ物色ヲ明カニスルノ道ニ於
テモ亦一大欠点ト謂ハサルヘカラス故ニ今之レカ
條規ヲ設ケ税率ヲ定メ速カニ其缺ヲ補テ以
テ權衡ヲ保持セントヲ欲ス現今我邦華族
六百五十餘戸士族四十三万一千餘戸平民八
百萬餘戸ヲ下ラス試ミニ左ノ方法ニ依テ之レ
カ徽税ヲ課セハ年計約當サニ貳千五百万圓
ヲ得ヘシ國家財政ノ上ニ於テ豈亦補益ナシ
ト為サンヤ是レ臣カ切ニ該條例ノ實施ヲ請

フテ此ノ建白ヲ奉呈スル所以ナリ

東京市銀町區有樂町三丁目壱番地寄留

山梨縣平民

鷹巣清次郎

明治三十一年八月

再拝

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

内務大臣伯爵板垣退助殿

大蔵大臣　松田正久殿

定紋條例

第一條　凡ソ日本臣民ニシテ自家ノ定紋ヲ衣服器具其他ニ附着使用セント欲スルモノハ其居住ノ市町村長ヲ經由シテ府縣知事ニ届出テ許可ヲ受クヘシ

第二條　定紋ハ自家固有ノ形骸ヲ名トシ其他何等ノ理由ヲ以テスルモ御紋章菊桐類似ノモノハ之ヲ付着スルコトヲ得ス

第三條　定紋ハ一人ニシテ定紋代ヘ紋畧紋等幾個ノ許可ヲ受クルモ妨ケナシ

第四條　定紋ノ許可ヲ請ントスルモノハ衣服ハ一ツ

紋金壱圓三ツ紋金三圓五ツ紋金五圓ノ年額税金ヲ納ムヘシ

第五條　衣服定紋ノ許可ヲ受ケタルモノハ諸般ノ器具ニ其ノ定紋ヲ附著スルヿヲ得

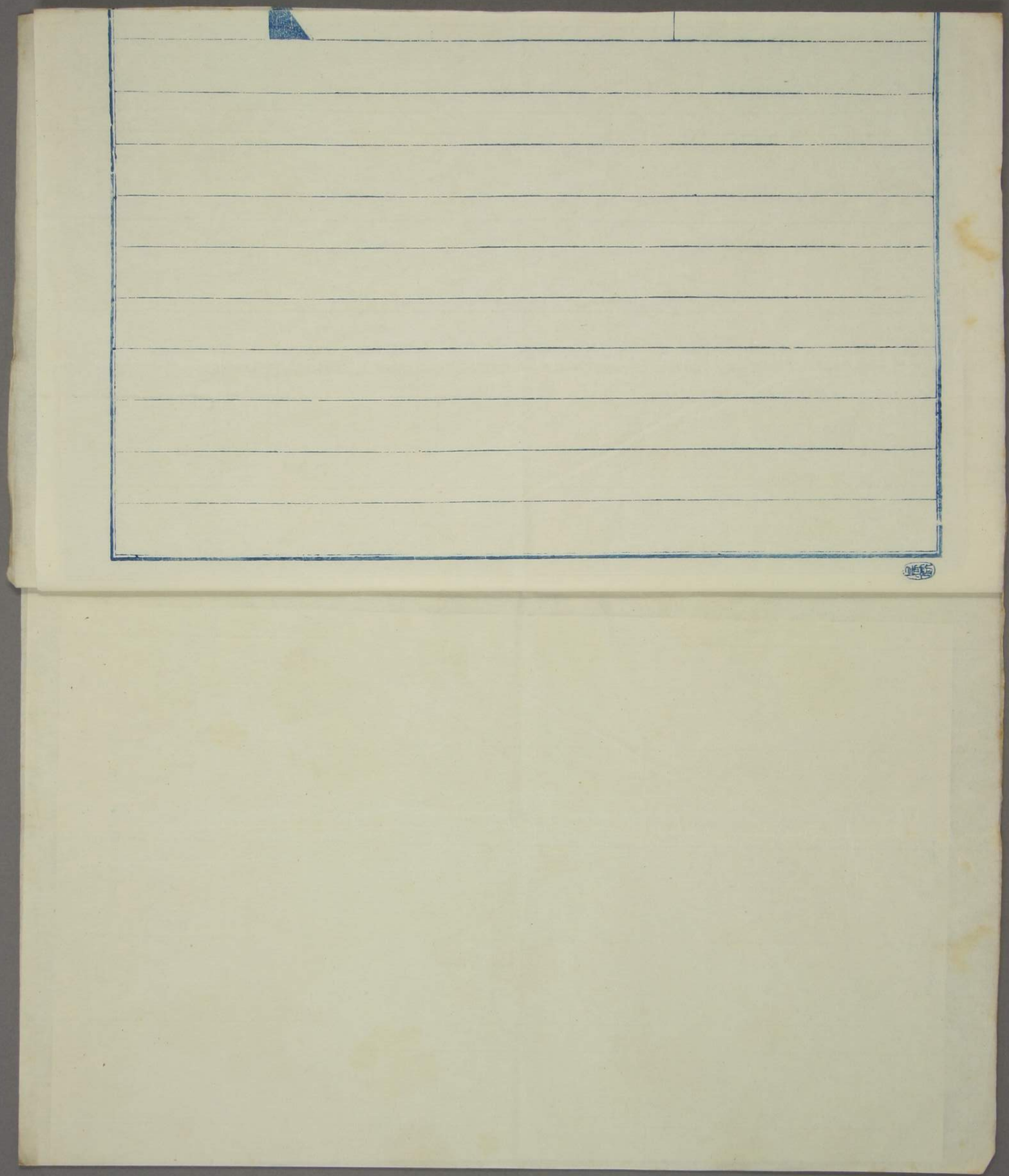
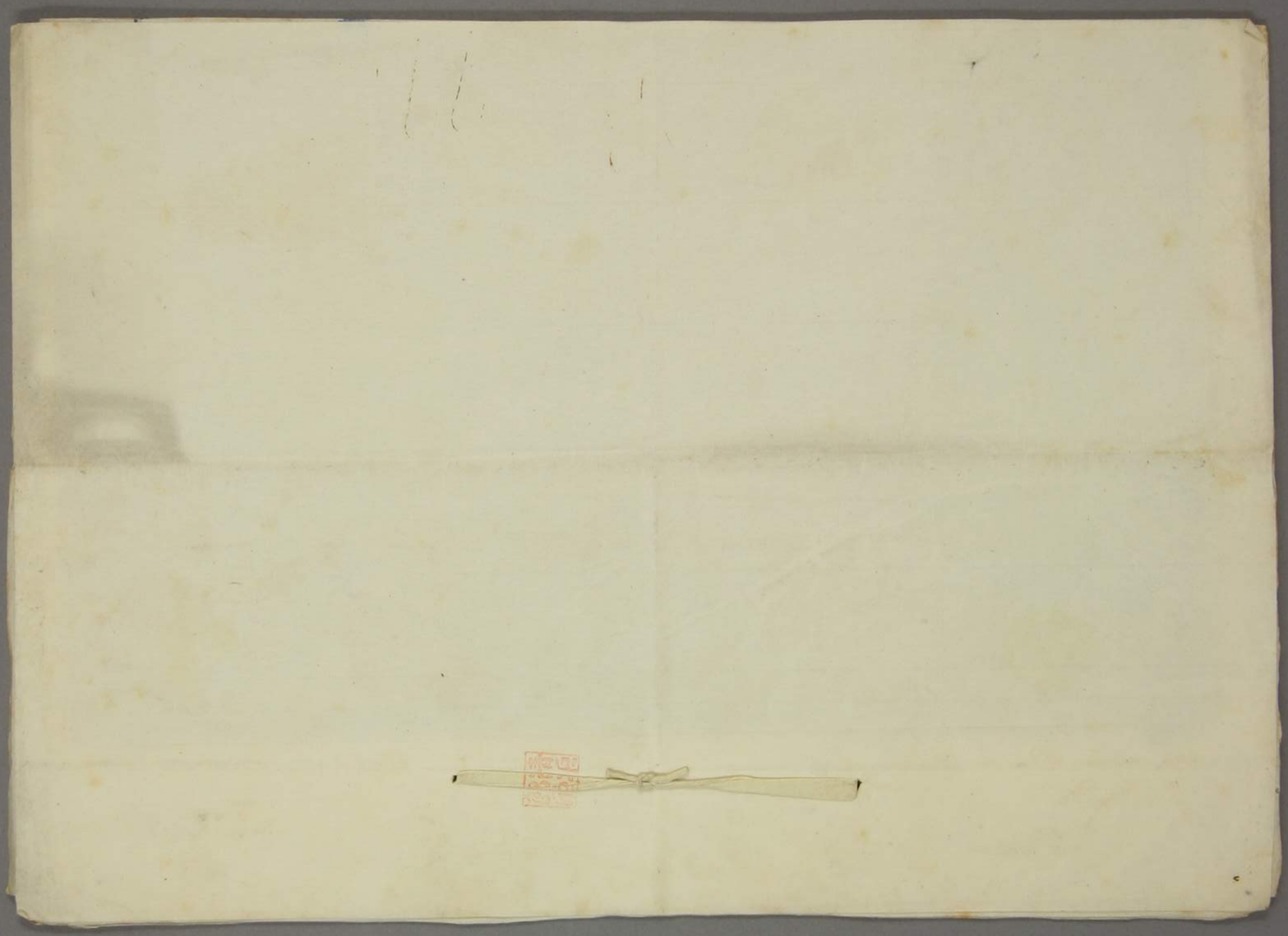
第六條　定紋外ニ代ヘ紋又ハ略紋等ノ許可ヲ得ント欲スルモノハ一種毎ニ定紋税ノ半額ノ税金ヲ納ムヘシ

第七條　定紋ハ數人同時ニ同一ノ紋影ヲ届ケ出テ許可ヲ受クルモ妨ケナシ

第八條　定紋代ヘ紋畧紋等ハ此ノ條例ニ依テサトハ何等ノ名義ヲ以テスルモ附著スルヿヲ得ス

第九條　定紋ノ届出テ又ハ許可及ヒ納税規則ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第十條　此條例ハ明治三十一年　月　日ヨリ施行ス

第十一條　此條例ハ當分台灣一般ヘハ施行セサルモノトス